令和６年度　九州地方発明表彰
「九州オープンイノベーションセンター会長賞」受賞者決定

国内の各地方(８地方)における優秀な発明(考案、意匠)を完成した方などを顕彰する地方発明表彰におきまして、令和６年度は、九州地方から２９件の応募があり、選考委員会の審査を経て、各賞の受賞者が決定しました。

特別賞の「九州オープンイノベーションセンター会長賞」には、株式会社デンケン様が応募された「台紙剥離装置」が受賞されました。

１１月１５日(金)に大分市で開催された表彰式では、当センターの今﨑専務理事より発明者の麻植　宏一(あさうえ　こういち)様及び佐藤　勝義(さとう　かつよし)様に、表彰状と楯の授与が行われました。

受賞者の㈱デンケン　麻植様（左側）

受賞者の㈱デンケン　佐藤様（左側）

※ 地方発明表彰について

１９０４(明治３７)年に設立された「工業所有権保護協会(現公益社団法人 発明協会)」 が、１９２１年(大正１０)年から開始した表彰で、今年で１０３年目となる。

発明の奨励・次代を担う人材の育成・知的財産権制度の普及啓発を通じ、科学技術の進展と産業経済の発展に貢献しているものである。

全国を８つの地方に分け、各地方において優秀な発明、考案、意匠を完成させた方々、発明等の実現化に尽力された方々などの功績を称え顕彰している。

「九州オープンイノベーションセンター会長賞」の紹介
o 発明名称：「台紙剥離装置」
[権利者：株式会社デンケン(大分県由布市挾間町鬼崎 688－2]

1．発明の経緯・概要

・本発明は、図１に示すように、アクリル樹脂から切り出されたワークにおいて、予めアクリル樹脂の表面に傷防止を目的として貼付されている、シート状又はフィルム状の保護材のみを剥離するための、保護材の剥離装置及び保護材の剥離方法である。
・本ワークとは、近年流行している、アニメキャラクターやアイドル等を印刷した玩具の一種、アクリルスタンド（以下アクスタという）の素材のことである。

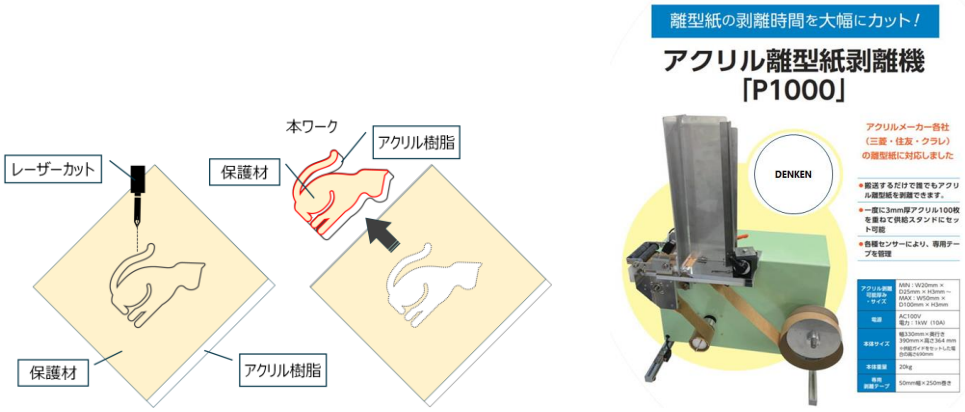
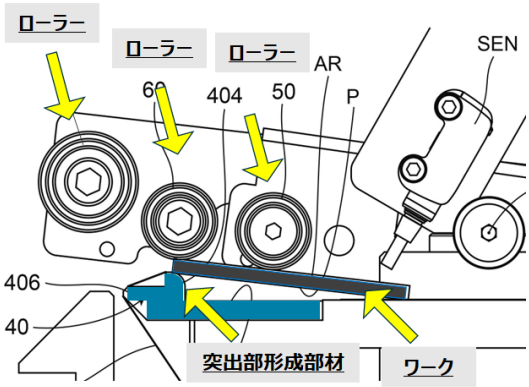


図１　ワーク（上）、実機写真（下）

2．発明の効果（特徴）

・従来からラベルシール等の保護材を剥離する商品はいくつかあったが、アクスタ用の保護材剥離は困難であるという課題があった。
・本装置は、右手方向からワークは搬送されてくる。ワークが突出部形成部材にある丸みを帯びた箇所に接触すると、ワークには保護材を剥離するための起点が生じ、この起点をきっかけにして、各ローラー（特にローラー６０）が、ワークを上から押しつけ、通過させることで、保護材を剥離するという特徴を有する。
・剥離の原理を例えるなら、人が“爪”で剥がす動作に近いと言える。



３．受賞者の声

・会社名：株式会社デンケン
・役職名：エレクトロニクス事業部　係長
・氏　名：田島　修自（たしま　しゅうじ）様

この度は発明者として、九州オープンイノベーションセンター会長賞をいただきありがとうございました。
今回はお客さんのリクエストから開発がスタートしましたが、経験のないアミューズメント関連の内容で試作の段階では全くうまくいかず途方に暮れていたのを思い出します。そこから実験を繰り返すことでお客さんの要望に応える発明につながったことは大変良い経験でした。
これからもこの賞を励みに業務に努めたいと思います。

・会社名：株式会社デンケン
・役職名：システム・ソリューション事業部　係長
・氏　名：麻植　宏一（あさうえ　こういち）様

この度は「九州オープンイノベーション会長賞」をいただき、大変光栄に思います。メンバーの努力が実を結び、一つの形になったことを嬉しく感じています。
台紙剥離装置は、アクリルスタンドの製造現場で、袋詰め前の保護台紙を一枚一枚剥がす作業が大変で、人手不足も深刻という声を受けて開発しました。アクリルを積み上げてスイッチを入れるだけで、スピーディーに連続で台紙を剥がすことができ、作業効率向上と人手不足解消に貢献します。
今回の受賞を励みに、今後も省力化装置の開発に取り組んで参ります。

・会社名：株式会社デンケン
・役職名：システム・ソリューション事業部　部長
・氏　名：佐藤　勝義（さとう　かつよし）様

この度は「九州オープンイノベーション会長賞」をいただきありがとうございます。日々の業務の中でこのような賞をいただくことは大きな励みになり、開発の苦労が報われる達成感があります。
今回は難しい機構ではなく簡単な機構が故の難しさもありましたが、関係者で何度も試行錯誤を繰り返しお客様に満足いただける商品を開発することができました。また、このような素晴らしい賞をいただくことができたのも社内の法務をはじめ関係者の支援あってのものと感謝しています。
これからも新たな発明に挑戦し続け皆様から喜ばれる商品を生み出して参ります。